

南半球便り（その 30）：「恐怖の鳥」

8 月 31 日

今日はマグパイの話をしてしまおう。「恐怖って、糖尿病の危険があるから？」と訝しがる人もいるかもしれません。それは、「マッドパイ」。マグパイは、豪州に多く生息する鳥です。



マッドパイならず。これが恐怖の鳥マグパイ。くちばしが鋭いでしょう？

1. 独特の生態系

南半球の豪州に来て強く感じるのは、北半球とは植物も動物も随分と異なることです。特異な動物の例を挙げれば、有名なカンガルー、コアラ。さらにはエミューやウォンバットなどなど。

鳥も同じです。シロオウムのコカトウ（Cockatoo=キバタン）は、鳴き声が驚く程うるさいので、今は無き英国エジンバラ卿が豪州を訪問した際に、「やかましい奴ら」(noisy buggers) とたしなめた由。我が家では「ギャオス鳥」と呼ばれています。



我が家ではギャオス鳥の愛称で親しむシロオウムのコカトウ

一方、マグパイはカササギフエガラス。黒い胴体に白い線が美しく走り、嘴がレター・オープナーのように鋭く尖っている鳥です。鳴き声も独特です。

「シークレット・シティ」というキャンベラを舞台にしたスパイ映画の傑作があります。その中で、中国の官憲に拘留されて中国にいと信じ込んでいた豪州人女性活動家が目隠しをされて外出するシーンがあります。その際、鳥（マグパイ）の鳴き声を聞いて「実は豪州にいるのだ。」と悟ったという展開でした。それほど、独特で豪州人には懐かしい声で啼くのです。

2. 悲惨な事故

悲劇が起きました。つい数週間前のことです。赤ん坊を連れて散歩していた母親がマグパイに襲われ、転倒。その際の打ち所が悪くて赤ちゃんが亡くなってしまったのです。

特に怖いのは春（南半球なので、9-11月くらい）の繁殖期。防巢本能が強く働くあまり、木の近くを通る歩行者やサイクリストを襲うのです。

週末にはキャンベラの湖岸をEバイクで走る私に対しても、マグパイがスクランブルをかけてくることがあります。そのため、サイクリストは襲われても大丈夫なように、サングラスをかけ、隙間を塞いだヘルメットを着用することが必須なのです。そうしないと鋭い嘴で突かれて大怪我をしてしまうからです。



隙間を塞いだヘルメット

3. 知患者

加えて、実に賢い鳥でもあります。自分に敵対した人間は覚えていて、襲ってくるとの説も。

餌をねだる時の執拗さも、相当なものです。大使公邸にも住み着いていて、毎朝キッチンの窓枠に張り付いて、物欲しそうな視線を投げかけてきます。長年勤務している現地職員によれば、どうやら私の前任者の一人が餌をあげていたために、期待値が高まってしまった由。「引継書」には触れられていなかった盲点です。

「お前も餌をあげているのか？」ですか。いえいえ。どんなに潤んだ目で見つめられても、私は決して折れません。気前の良い親父だと思われて次から次に集まってきたら收拾がつかないですから。ヒッチコックの「鳥」は、忘れられません。

4. ペンギン・ブルーム

豪州には、こうしたマグパイを描いた名画があります。その名も、「ペンギン・ブルーム」。ブルーム家にいつくようになったマグパイがその色から「ペンギン」という愛称で呼ばれ、家族の一員のように親しまれるというストーリー。日本でも人気の女優ナオミ・ワッツ主演です。



親鳥を失ったマグパイとブルーム家の試練と成長を描く豪州のヒューマン・ドラマ

ジーンとくる家族愛の物語ですが、これを観ても、マグパイへの私の恐怖は消えませんでした。そこで、ナショナル・プレス・クラブでの講演でも言及しました。【[原稿](#)、[動画](#)はこちらをご覧ください。】

5. 国の護り

外交・軍事の世界では、時にしてそれぞれの国に独特の縁の深い動物によってイメージが作られることがあります。獅子、熊、象、虎、竜など、どの国のことかピンと来る方が多いでしょう。

豪州の国の紋章にはカンガルーとエミューが描かれています。カンガルーはつぶらな瞳といい、実に愛嬌のある動物ですが、あの前足でボクシングをしたり胸板を叩いたりという「尚武」の気風もあります。



豪州の国章。カンガルーとエミューは前にしか進めない動物であることから、
国として前進していこうという意味が込められている
(出典：1912 Department of the Prime Minister and Cabinet, Australian Government)

陸はカンガルーとエミューだとして、その延長で言えば、海の護りはシャーク、空の護りは
マグパイということでしょうか。実に手強い国ですよ。

山上信吾